

第24回作家展

会期／前期 平成27年10月16日(金) 10月21日(水)

後期 平成27年10月23日(金) 10月28日(水)

会場／さいたま市大宮盆栽美術館
主催／日本盆栽作家協会

前期



楓 (カエデ 株立)
鉢：均窯長方

山田登美男 (埼玉県)

本作は、45年前に入手したものである。当時、将来の樹形を想定して、主木の手前一本を取木して、右手前に移植したのが、現在ようやく理想的な姿に辿り着いた。盆栽はその樹の将来を創造することにより、更に大きな景色をつくることができる。風情のある景趣を楽しんでもらいたい一点である。





五葉松 鉢：南蛮太鼓胴 矢内 信幸（大阪府）

本作は、五葉松ではないと表現することができない自然美のある樹形である。「斜幹（しゃかん）」と呼ばれる幹模様の、厳しいまでの幹味が見どころである。

山もみじ

鉢：和緑釉楕円

菊岡 成泰（奈良県）

本作は、40数年前より培養しているものである。当時は数本の樹を寄せて植えた「寄せ植え」という樹形であったが、現在はお覧のとおり3本の幹が一株となっており、その盤状に広がりつつある根元の造型美を楽しんでいる。





花梨 鉢：中国正方 山崎 純一（富山県）

この花梨は、1997年に入手し、以来18年間培養に取り組んできたものである。ようやく作品として自信を持てるレベルまで到達できたと思っている。今後は枝のホグレや鉢写り等を追求し、樹格向上に努めていきたいと思っている。



五葉松 鉢：和正方
馬場 守一（群馬県）

本作には、自然環境の荒々しさが表現されている。幹は傾き、根は露出し、枝は垂れ下がりながら、「生き延びることの出来る方法」で成長した結果、現在の樹形になっている。



五葉松（銘：鳳林） 鉢：常滑白泥外縁下紐長方 須藤 雨伯（栃木県）

この樹は私の先代の残された盆栽で、私はひたすら50年培養してきた。この機会に銘を付けて、なお一層「樹を養うことをもって人を養う法となる」を我が教訓とし、精進したいと思う。銘「鳳林」は金閣寺住職（1592～1668）の名に由来する。鳳林和尚は多芸多趣味の人で、詩文、茶道、盆栽、盆石に強い好奇心と風流をもった人物である。

五葉松 鉢：和丸
阿部 健一（福島県）

樹齢実生48年、5年ものの苗木に、「曲づけ」（幹や枝を針金掛けで曲げて風情を出すこと）をして畑で30年間培養した。その間に幹に「曲づけ」をくりかえし行い、18年前に鉢上げを行った。最初の整形を行う時に足元の立ち上がりを活かすために、思い切って樹高の3分の2以下の枝を全て切り落とした。その上で、高い場所の枝を落ち枝の裏枝として使い、左流れを強調するため、落ち枝の差し枝を使い、自然らしさの表現を心掛けてみた。





アメリカ蔦・黒松 鉢：和楕円水盤 米沢 増雄（東京都）

紫黒色の華奢な実を付けたアメリカ蔦に、軽妙洒脱（けいみょうしゃだつ）な卓と、黒松の石付き盆栽を合わせた。静寂の美を感じてほしい一席である。

深山海棠（ミヤマカイドウ）

鉢：中国新渡

野上 寿明（富山県）

平成元年に種をまき、平成5年に株立ちになるように根本で切り込み、石に付け、今まで花が咲いても全部取っていたが、今年はずじめて実をつけてみた。春の花どきも美しいが秋の実がたわわな景色も一段と美しいと思う。



作家展主旨

本協会が主催する作家展は、生きた伝承芸術、盆栽作家の精神高揚と高度な盆栽美を作出することにあります。

盆栽作家は人間性の豊かな感性を磨き、自然愛を基本とした芸風を作品に表現されることが、最も大切であり、お互いを研鑽し合い、盆栽文化の一層の発展を切望するものであります。

しかし、盆栽作家をめざす条件は大変に厳しく、自然との調和を図り、永い修練の中から体得し、その積み重ねから美の心を包含する作業であります。今日の作家群が明日の社会にクリエイティブなボンサイ・アートとして、環境保全等に貢献できることを期待いたします。

第24回作家展 後期





皐月（さつき）（晃山） 鉢：朱泥切立下紐雲足長方 小林 國雄（東京都）

根張りとしち上がりの品の良さに魅せられ入手。左の一の枝を取り、空間を現出することで「形小相大」を表してみました。盆栽は線の動きと空間、そして時間経過の美が大切な要素であると思います。



山もみじ（紅千鳥）
鉢：白交趾楕円（真山）
塚田 博巳（茨城県）

今から約30年前に入手したものです。50cmの苗木に「曲づけ」（幹や枝を針金掛けで曲げて風情を出すこと）をして畑に植えて、肥培をし続けました。8年前に畑から地上げして作り始めて、現在の姿になりました。



杜松（としょう） 鉢：紫泥楕円 秋山 実（山梨県）

鋭く尖った葉を特徴とする杜松は、「ねずみさし」または「ねず」と呼ばれています。本作は杜松では珍しい株立ち樹形となっています。厳しい姿の樹形ではなく、「株立ち」で景色が広がる樹形を心がけました。



真柏

鉢：和丸

琳葉 千絵（東京都）

水すいの褐色と透き通るようなシャリの白さが美しい、半懸崖の真柏。樹の良いところを最大限に生かし、静かに語る真柏の言葉に耳をかたむける。幹から感じる生命力を大切に、作品に仕上げました。



五葉松（半懸崖） 鉢：和八角 今井 千春（神奈川県）

中品ながら立ち上がりからうねりを伴い力強く下垂する幹模様と、葉性の良さに魅力を感じ、4年前に入手しました。以後、枝作りに専念し、現在に至っています。まだ未完成の樹ですが、ようやく飾れる姿になってきたので、今回出品させていただきました。



五葉松（瑞祥）

鉢：誠山外縁長方

吹田 勇雄（宮城県）

五葉松（瑞祥）は成長が早く、芽出しが良く、作りやすい品種です。この樹は立ち上がりが良い、個性的な前枝が特徴で、背のわりには幹の太さが有り、普通の模様木と違い個性的な感じが気に入り入手しました。今後は右の一の枝の充実を図り、芽数を減らしながら雄大に作って行きたいと考えています。



杜松（としょう） 鉢：中国輪花式 養田 昂之（東京都）

幹模様と杜松特有の「シャリ」の味、そして「水すい」の芸の素晴らしさには、今にも動き出しそうな迫力があります。今後も培養に努め、新たな魅力を作出していきたいと思えます。



赤松 鉢：紫泥輪花

福館 治（岩手県）

サバを噛みながら立ち上がり、激しくうねりながら下降する幹には、山取り特有の荒々しさが感じられます。この赤松を入手した当初は半枯れの状態でした。樹勢回復に努め、野趣を活かすため、針金をかけない様になっています。